

津市総合計画基本構想試案の概要

序章 計画策定の背景

本市の概況

本市の特性

- 豊かな自然環境と広大な市域
- 多様な歴史・文化資源
- 都市機能が集積する県都
- 多様な産業の集積
- 高齢社会が急速に進化した地域を内包
- 中部圏と近畿圏の結節点

時代の潮流

- 環境問題の深刻化
- 少子高齢化と人口減少の進展
- 地方分権の進展
- 市民意識の変化
- 国際化・大交流の時代
- ユビキタスネット社会への対応

人口・世帯の現状と今後のすう勢

人口 平成17年 29万2千人 ⇒ 平成29年 28万7千人
 世帯 平成17年 11万5千世帯 ⇒ 平成29年 13万2千世帯

市民の意識

- 定住志向が強い
- 安全・安心に関する施策への関心が高い
- 市民の自主的な活動への期待度が高い
- 地域活動への参加意向が高い

本市の主要課題

- 多様性に富んだ地域資源の活用による魅力づくり
- 安全・安心対策の強化
- 人口減少地域における地域力の維持、強化
- 都市基盤整備の推進
- 多様な産業資源の有効活用
- 産業基盤の強化
- 公共施設の有効利用と再編
- 行財政改革の積極的な推進

1 津市の将来像

【3つの基本理念】

「住みやすさ」と「人と人とのつながり」を大切にしつつ、**■安心 ■交流 ■元気**を基本理念に新しい県都づくりを推進

【将来像】

「環境と共生し、心豊かで元気あふれる美しい県都」

【想定人口】

まちづくりのための適正な人口規模:28万人～30万人と幅を持たせて設定
 定住の促進と交流人口100万人の創出などによって人口30万人規模の活力創造

2 まちづくりの目標

- 美しい環境と共生するまちづくり
- 安全で安心して暮らせるまちづくり
- 豊かな文化と心を育むまちづくり
- 活力のあるまちづくり
- 参加と協働のまちづくり

4 まちづくりの施策体系

⇒新市まちづくり計画の基本政策に基づいて編成

- | | |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 美しい環境と共生するまちづくり <ul style="list-style-type: none"> ○循環型社会の形成 ○次世代に残す自然環境の保全 ○快適な生活空間の形成 ○生活基盤の整備 安全で安心して暮らせるまちづくり <ul style="list-style-type: none"> ○安全なまちづくりの推進 ○健康づくりの推進と地域医療体制の充実 ○地域福祉社会の形成 | <ol style="list-style-type: none"> 豊かな文化と心を育むまちづくり <ul style="list-style-type: none"> ○生きる力を育む教育の推進 ○高等教育機関との連携・充実 ○生涯学習スポーツ社会の形成 ○文化の振興 ○人権尊重社会の形成 活力のあるまちづくり <ul style="list-style-type: none"> ○自立的な地域経済の振興 ○交流機能の向上 ○観光の振興 参加と協働のまちづくり <ul style="list-style-type: none"> ○市民活動の促進 ○市民との協働の推進 |
|--|---|

3 土地利用構想

土地利用の基本方針

- 計画的な土地利用の推進
都市計画区域等の見直しなど
- 災害に強いまちづくりの推進
都市基盤の耐震化による防災機能の拡充など
- 地域特性に応じた暮らしの場の形成
コンパクトな市街地の整備など
- 成長可能性を引き出す土地利用の誘導
津IC周辺などの交通利便性の高い地域における都市機能の整備など
- 豊かな自然環境の保全・活用
山林等の維持・保全、グリーンツーリズムや二地域居住などのニーズに対応した環境整備など
- 良好な農村集落と魅力的な田園環境の形成
農村の美しさ良さを維持した魅力的な田園環境の整備など

ゾーン別の土地利用方針

⇒ 都市ゾーン、農住ゾーン、自然環境共生ゾーン

まちづくり骨格の形成方向

- 拠点の配置
広域的に魅力のある場として、本市の求心力を高める機能としての拠点の配置、強化
 ・交流拠点
 ・産業拠点
 ・新産業交流拠点
 ・歴史文化拠点
 ・レクリエーション拠点
- 広域交通ネットワークの形成
広域連携軸の充実・強化、域内の道路網の形成、公共交通の有機的な連携などによる一体感あるまちづくり

5 重点プログラムの編成とその展開方向

まちづくり戦略プログラム

⇒新市としての一体感あるまちづくり

- 未来を拓く都市空間形成プログラム
- 自然の恵みの価値創造プログラム
- 海に開くまちづくりプログラム
- 持続可能な地域形成プログラム
- 歴史と文化の拠点形成プログラム
- 健康とスポーツの振興プログラム

元気づくりプログラム

⇒人と人とのつながりを大切に
参加と協働のまちづくり

- 住みやすさ向上プログラム
- 元気なひとづくりプログラム
- 若者定住プログラム
- 交流による活力創造プログラム
- 津らしさ実感プログラム

エリアの設定

新たな地域連携の創出と市民ニーズに応じた効果的な行政サービスの提供

地域かがやきプログラム

⇒特色ある地域振興

- | | |
|---------|---------------------|
| ① 東部エリア | キラリと輝く人づくり・まちづくり |
| ② 北部エリア | 都市や自然と共存するふれあいの里づくり |
| ③ 中部エリア | みのりとぬくもりの郷(さと)づくり |
| ④ 南部エリア | 健康で暮らせる自然と歴史の地域づくり |

6 構想を推進するために

- 行財政改革の推進による健全財政の確保 ⇒ 職員定数の大幅な削減、公共施設の見直し、時代に即した財政構造への変革など
- 行政経営システムの構築 ⇒ 自立型の事業部門の確立、重点プログラムの政策評価、経営資源の有効活用 など
- 電子自治体の推進 ⇒ ICT(情報通信技術)の活用、地域情報化 など